第１回 双葉町復興推進委員会　議事概要

■日　　時 ： 平成２５年１０月９日（水） 午前１０時００分～１２時００分
■場　　所 ： 双葉町いわき事務所 ２階大会議室
■出 席 者 ： 別紙座席表のとおり
■議事概要
１．開会
２．委嘱状交付
３．町長あいさつ
４．双葉町復興推進委員会設置要綱について
　資料３に基づき、事務局より説明。
５．委員長並びに副委員長の選任について
　委員長に、県立広島大学名誉教授・福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員　間野博委員、副委員長に、伊藤哲雄委員と高野陽子委員を選任
６．今後の委員会の進め方について
（１）会議の公開等について
　資料 4 に基づき、事務局より説明後、今後の会議の公開等について、以下のとおり決定した。
　○ 会議は公開とする。
　○ 会議資料は原則として公開とする。
　○ 会議終了後に事務局において意見の概要を整理した議事概要を作成し、ホームページに掲載する。
　○ 議事録は、発言者に確認の上、ホームページに掲載する。
（２）今後の委員会の進め方について
　資料 5、6、7、8、参考資料、双葉町復興まちづくり計画（第一次）に基づき、事務局より説明後、質疑。委員の主な意見は以下のとおり。
　○ 復興公営住宅への要望として、町民は戸建が多いと思うが集合型になってしまうのか。戸建の要望はもう聞かないのか。
　○ 各地の自治会で盆踊りや夏祭りをやるのは不可能である。主催者が高齢者であるため難しい。そのための団体を作ることや、助成金をアップすることを検討してほしい。
　○ 町民にはいろいろな悩み事があり、きずなを維持していくために考えを聞かせてほしい。
　○ インターネットを活用した町民の意見聴取の方法は、高齢者が多いのでそぐわないのではないか。復興公営住宅の建て方についても、高齢者は

具体的にイメージできない。不安を払拭させるための説明が必要である。

○ 復興関連の話は出るが進んでいない。全国各地に避難している町民がいち早く安心して住めるようなまちづくりをしてほしい。

○ いわき地区の老人ホームなどの施設の入居者が待機待ちであり、希望通りに入居できない。双葉にあった特別養護老人ホームの事業再開について検討・協議してほしい。

○ 集会所を自分達で立ち上げる際に町にもお願いをしたが、予算を出してくれず、本当にきずなを考えてくれていたのか疑問を持った。自治会では限界があるので、町で管理して町民が参加できるような、きずなの場所を作ってほしい。

○ 財政的に余力のある人は仮設を出ていき、残された人が羨ましさやねたみを感じるなど今までにない雰囲気がある。

○ 世代間のコミュニティ形成は難しい。これからどうしよう、ということで精一杯である。

○ 広域的な配慮で議論を進めてほしい。住宅もコミュニティ形成に配慮し建設することが大事である。

○ 双葉町はお祭りやスポーツで大変元気なまちであった。スポーツを核としたふれあいクラブの再建に力をいれてほしい。

○ 地域には学校教育に関していろいろな能力を持った方がいる。そのような人達と交流活動を行うことを通じて地域の活性化につなげていきたい。

○ 震災後、自分の子供が避難先で入学し、家族もバラバラになり日々生きることで精一杯だった。委員に就任したことをきっかけに一緒に討議していきたい。

○ 震災後いろいろな悩みを聞いてきた。埼玉に避難している人たちは、「福島県内に戻らなければならないのか」と不安に思っている町民もいる。

○ 双葉町の復興にあたって核になるものがない。人が集まることができる場所や双葉町を他に発信できる場所を早く作っていくべきだ。

○ 通過交通の申請用紙をインターネットで出すように言われた。しかしインターネットができない町民が多い中でそのような対応では問題があるのではないか。何か方法を考えるべきだと思う。

○ 双葉町の電話帳があってもよい。

○ 仮設住宅では高齢者が日中一人である。介護施設にもなかなか入れずデイサービスを利用するにも送り迎えに不安がある。

○ 若者には仕事がない。

○ 健康調査は継続して日赤等にやってもらったらどうか。介護職員が不足

しているため、確保に協力してほしい。

○ 魅力ある集まりを検討してほしい。また、学校が中心となるようなまちづくりが大事ではないか。

○ 避難指示解除準備区域内で賠償に格差がある。双葉町は一体であるため、賠償も平等にしてほしい。

○ 昨年だけで 165 もの双葉町の事業施策が出されたのであれば、今後も増えてくる可能性が高い。

○ 町の復興にあたっては、企業の役割が非常に大事だ。学校の社会科見学も双葉町にもともとあって、現在は移転している企業を見せることでモチベーションも上がるのではないか。また、ワークショップの参加周知を工夫してほしい。

○ 何年後に帰還できるのか。中間貯蔵施設はどこにどういったものができるのかにより今後の見通しが立つ。それが決まらない限りは、委員会で検討しても絵に書いた餅のような気がする。

○ 同じ思いを持つ人同士が会って話し合える場所はこれからも必要である。

○ 人の復興と町の復興の方向性が同じではなく、ずれが生じていると感じる。それぞれの家族が自分達の生活について決断し始めているからであり、町の方向性とは同じではないことがある。生活再建は最終的には家族の判断であるが、選択できるメニューがなさすぎる。

○ 町で判断できない要素が多すぎるため町だけに迫るのは酷である。国も県も町と一緒に対応していくべきである。

○ 再建のために力を発揮したいという思いを持つ人が多いのに、住民の参画が生かしきれていない。

○ 復旧と復興を分けて考えた方がよい。

○ メディアを活用し町民の取り組みを積極的に取り上げてもらうことで、各地の町民が双葉町を思い出す。

○ 高齢者向けの情報発信として新聞を配布する取組がある。

以上

第1回双葉町復興推進委員会座席表

（敬称略）

1　日時　平成25年10月9日（水）
　　10：00～12：00
2　場所　双葉町いわき事務所　2階大会議室

委員長席

駒田　義誌	事務局（復興推進課）	伊澤　史朗		岩元　善一		芥川　一則		齊藤　六郎
山本　一弥		半澤　浩司		大橋　正子		丹波　史紀		菅本　洋
鈴木　健一		半谷　淳		高野　陽子		間野　博		
相楽　定徳	事務局（復興推進課）	武内　裕美		福田　英子		伊藤　哲雄		復興庁 佐藤　弘之 企画官
橋本　靖治		平岩　邦弘		岡村 隆夫		岩本　千夏		福島復興局 高橋　直人 次長
西牧　孝幸		舶来　丈夫		小畑　明美		木藤　喜幸		福島復興局 須田　亨 参事官補佐
伊藤　壽紹	事務局	大橋　利一		中谷　博子		相楽　比呂紀		福島復興局 いわき支所 芳賀　克男 所長
橋本　憲一		渡邉　勇		松本　浩一		福田　一治		福島復興局 いわき支所 鈴木　誠 次長
(財)電源地域振興センター 客員研究員 中村　元則				山本　眞理子		石田　恵美		福島県 避難地域復興課 阿部　栄一郎 総括主幹兼副課長
(財)電源地域振興センター		大住　宗重		岡田　常雄		小川　貴永		福島県 生活拠点課 皆川　雅光 副課長兼主任主査
(株)アルテップ		今泉　祐一		川原　光義		谷　充		福島県 避難地域復興課 石井　正義 主査
(財)ふくしま市町村支援機構								
国際航業株式会社				高田　秀文		田中　勝弘		福島県 生活拠点課　駐在員 熊坂　雅彦 副課長（双葉町担当）